

大学のルーツは

大阪偕行社附属小学校

＜明治21年4月創立＞

——母校創立90周年記念——

- 第1部 総会 司会 関 謙二氏(経45)
- 第2部 講演 堺屋 太一氏(校友)
- 第3部 音楽・余興・パーティー(パーティーの飲食代は無料)
- 記念品(お持ち帰り)代として 千円

8月19日の常任理事会で 今年度の総会を親団体
追手門学院校友会山桜会と協力し 次のとおり開
催することといたしました。ぜひお出かけ下さい。

11月26日(日) 午後1時
母校発祥の地 追手門学院小学校・講堂
(大阪城の北・合同庁舎の東
地下鉄天満橋から歩いてすぐ)

親団体 山桜会総会に
将軍山会も全面協力
総会実行副委員長 鶴 毅

将軍山会報

発行所
茨木市安威230
追手門学院大学同窓会
将軍山会
☎ 0726-43-5421 内線337
発行者
常任理事会議長 鶴 毅
© 1978
印刷所
内田印刷 K K

OBも学生会館を使えます。

詳しくは 次の協定書をお読み下さい。

学生会館使用に関する協定書

追手門学院大学学生会館(以下学生会館という。)は、学生相互及び
学生と教職員との人間関係を深め、学生の課外活動の発展に資すると共
に、学生の厚生福祉を増進することを目的としたもので、学生の使用を第
一優先するものであるが追手門学院大学学生会館運営委員会(以下学館
運営委員会という。)と追手門学院大学同窓会将軍山会(以下将軍山会
という。)は、卒業生の学生会館の使用に關してその円滑な運営を計る
ため、下記の協定を行い、後日の為 に協定書を作成するものである。

協 定 事 項

一 卒業生(OB会その他卒業生によって主催する諸会合を全て含む)が学生会館に属するあらゆる場所の使用を希望した場合(ただし第一会議室を除く。)所定の書類に使用の目的、趣旨、参加者数、責任者氏名、住所、連絡電話番号等を記載し、将軍山会を通じて使用申込みをすることが出来る。

二 使用者(卒業生)は、学生会館に關する諸規程を厳守すると共に別に定められた使用料(所定の実費)を申込書提出時に将軍山会に預ける。

三 将軍山会は、学生会館使用についての一切の責任を負う。
四 学館運営委員会は、将軍山会より使用申込みがあった場合には速やかに処理し、諾否を書面(使用許可書)によって回答する。

以上を確認調印する。

昭和53年6月20日

追手門学院大学
学生会館運営委員長 渡部 重明
追手門学院大学同窓会
将軍山会常任理事会議長 鶴 毅

将軍山会貸借対照表

昭和53年3月31日 (単位円)	
資 産 の 部	(27,035,155)
I 流動資産	(10,025,642)
現金	95,305
普通預金	
三和銀行	1,158,100
住友銀行	313,474
大和銀行	458,763
定期預金	1,930,337
三和銀行	
住友銀行	1,000,000
有価証券	1,000,000
II 固定資産	6,000,000
1. 投資等	(17,009,513)
将軍山会基金	(17,009,513)
積立普通預金	9,513
将軍山会基金	
積立有価証券	17,000,000
合 計	27,035,155
負債の部	(26,017,613)
I 流動負債	(9,008,100)
前受金	7,860,000
未払金	18,100
預り金	1,130,000
II 特定引当金	(17,009,513)
将軍山会基金	17,009,513
剰余金の部	(1,017,542)
I 繰越消費収入超過額(当期消費収入超過額452,337)	1,017,542
合 計	27,035,155

将軍山会消費収支計算書

自 昭和52年4月1日 至 昭和53年3月31日 (単位円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
(収入の部)			
会費	7,700,000	8,230,000	△530,000
受取利息	1,000,000	1,225,831	△225,831
基金積立預金利息	0	2,014	△2,014
寄付金収入	0	213,000	△213,000
収入の部合計	8,700,000	9,670,845	△970,845
(支出の部)			
人件費	300,000	278,250	21,750
会報印刷費	200,000	219,000	△19,000
その他の印刷費	200,000	235,400	△35,400
通信・交通費	1,000,000	466,200	533,800
消耗品費	50,000	28,395	21,605
会議費	100,000	54,360	45,640
慶弔費	20,000	9,290	10,710
卒業記念品代	100,000	100,000	0
雑費	30,000	22,599	7,401
予備費	200,000	80,000	120,000
将軍山会基金繰入	6,500,000	7,725,014	△1,225,014
支出の部合計	8,700,000	9,218,508	△518,508
当年度消費収入超過額	0	452,337	△452,337
前年度繰越消費収入超過額	565,205	565,205	0
次年度繰越消費収入超過額	565,205	1,017,542	△452,337

昭和53年度 将軍山会消費収支予算書

科 目	53年度予算	52年度予算	増 減
(収入の部)			
会費	8,000,000	7,700,000	300,000
受取利息	1,160,000	1,000,000	160,000
収入の部合計	9,160,000	8,700,000	460,000
(支出の部)			
一 一般会計			
人件費	300,000	300,000	0
会報印刷費	200,000	200,000	0
その他の印刷費	250,000	200,000	50,000
通信・交通費	1,000,000	1,000,000	0
消耗品費	50,000	50,000	0
会議費	100,000	100,000	0
慶弔費	25,000	20,000	5,000
卒業記念品代	105,000	100,000	5,000
雑費	30,000	30,000	0
予備費	100,000	200,000	△100,000
将軍山会基金繰入	5,300,000	6,500,000	△1,200,000
特別会計			
役員改選費	550,000	0	550,000
員外費	150,000	0	150,000
通印費	1,000,000	0	1,000,000
総会費			
支出の部合計	9,160,000	8,700,000	460,000
当年度消費収入超過額	0	0	0
前年度繰越消費収入超過額	1,017,542	565,205	452,337
次年度繰越消費収入超過額	1,017,542	565,205	452,337

お願い
いろいろなご連絡はハガキで
△会員番号▽を お忘れなく 住所変更
・改姓のご連絡は 早い目に。ご結婚の
時は一週間前までにお知らせ下さい。祝
電を送ります。

山桜会報が近々 届けられます。業種
・職業調査にご協力願います。返送用ハ
ガキに 要点ご記入の上 できるだけ早
くご投函願います。
ご不審の点は 電話またはハガキでお
問い合わせ下さい。

大学のルーツは

大阪偕行社附属小学校

＜明治21年4月創立＞

——母校創立90周年記念——

- 第1部 総会 司会 関 謙二氏(経45)
- 第2部 講演 堺屋 太一氏(校友)
- 第3部 音楽・余興・パーティー(パーティーの飲食代は無料)
- 記念品(お持ち帰り)代として 千円

8月19日の常任理事会で 今年度の総会を親団体
追手門学院校友会山桜会と協力し 次のとおり開
催することといたしました。ぜひお出かけ下さい。

11月26日(日) 午後1時
母校発祥の地 追手門学院小学校・講堂
(大阪城の北・合同庁舎の東
地下鉄天満橋から歩いてすぐ)

親団体 山桜会総会に
将軍山会も全面協力
総会実行副委員長 鶴 毅

将軍山会報

発行所
茨木市安威230
追手門学院大学同窓会
将軍山会
☎ 0726-43-5421 内線337
発行者
常任理事会議長 鶴 毅
© 1978
印刷所
内田印刷 K K

OBも学生会館を使えます。

詳しくは 次の協定書をお読み下さい。

学生会館使用に関する協定書

追手門学院大学学生会館(以下学生会館という。)は、学生相互及び
学生と教職員との人間関係を深め、学生の課外活動の発展に資すると共
に、学生の厚生福祉を増進することを目的としたもので、学生の使用を第
一優先するものであるが追手門学院大学学生会館運営委員会(以下学館
運営委員会という。)と追手門学院大学同窓会将軍山会(以下将軍山会
という。)は、卒業生の学生会館の使用に關してその円滑な運営を計る
ため、下記の協定を行い、後日の為、に協定書を作成するものである。

協 定 事 項

一 卒業生(OB会その他卒業生によって主催する諸会合を全て含む)が学生会館に属するあらゆる場所の使用を希望した場合(ただし第一会議室を除く。)所定の書類に使用の目的、趣旨、参加者数、責任者氏名、住所、連絡電話番号等を記載し、将軍山会を通じて使用申込みをすることが出来る。

二 使用者(卒業生)は、学生会館に關する諸規程を厳守すると共に別に定められた使用料(所定の実費)を申込書提出時に将軍山会に預ける。

三 将軍山会は、学生会館使用についての一切の責任を負う。
四 学館運営委員会は、将軍山会より使用申込みがあった場合には速やかに処理し、諾否を書面(使用許可書)によって回答する。

以上を確認調印する。

昭和53年6月20日

追手門学院大学
学生会館運営委員長 渡部 重明
追手門学院大学同窓会
将軍山会常任理事会議長 鶴 毅

将軍山会貸借対照表

昭和53年3月31日 (単位円)	
資 産 の 部	(27,035,155)
I 流動資産	(10,025,642)
現金	95,305
普通預金	
三和銀行	1,158,100
住友銀行	313,474
大和銀行	458,763
定期預金	1,930,337
三和銀行	
住友銀行	1,000,000
有価証券	1,000,000
II 固定資産	6,000,000
1. 投資等	(17,009,513)
将軍山会基金	(17,009,513)
積立普通預金	9,513
将軍山会基金	
積立有価証券	17,000,000
合 計	27,035,155
負 債 の 部	(26,017,613)
I 流動負債	(9,008,100)
前受金	7,860,000
未払金	18,100
預り金	1,130,000
II 特定引当金	(17,009,513)
将軍山会基金	17,009,513
剰余金の部	(1,017,542)
I 繰越消費収入超過額(当期消費収入超過額452,337)	1,017,542
合 計	27,035,155

将軍山会消費収支計算書

自 昭和52年4月1日 至 昭和53年3月31日 (単位円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
(収入の部)			
会 費	7,700,000	8,230,000	△530,000
受 取 利 息	1,000,000	1,225,831	△225,831
基金積立預金利息	0	2,014	△2,014
寄 付 金 収 入	0	213,000	△213,000
収入の部合計	8,700,000	9,670,845	△970,845
(支出の部)			
人 件 費	300,000	278,250	21,750
会 報 印 刷 費	200,000	219,000	△19,000
その他の印刷費	200,000	235,400	△35,400
通 信 ・ 交 通 費	1,000,000	466,200	533,800
消 耗 品 費	50,000	28,395	21,605
会 議 費	100,000	54,360	45,640
慶 弔 費	20,000	9,290	10,710
卒業記念品代	100,000	100,000	0
雑 費	30,000	22,599	7,401
予 備 費	200,000	80,000	120,000
将軍山会基金繰入	6,500,000	7,725,014	△1,225,014
支出の部合計	8,700,000	9,218,508	△518,508
当年度消費収入超過額	0	452,337	△452,337
前年度繰越消費収入超過額	565,205	565,205	0
次年度繰越消費収入超過額	565,205	1,017,542	△452,337

昭和53年度 将軍山会消費収支予算書

科 目	53年度予算	52年度予算	増 減
(収入の部)			
会 費	8,000,000	7,700,000	300,000
受 取 利 息	1,160,000	1,000,000	160,000
収入の部合計	9,160,000	8,700,000	460,000
(支出の部)			
一 般 会 計 費	300,000	300,000	0
人 員 報 印 刷 費	200,000	200,000	0
会 報 印 刷 費	250,000	200,000	50,000
その他の印刷費	250,000	200,000	50,000
通 信 ・ 交 通 費	1,000,000	1,000,000	0
消 耗 品 費	50,000	50,000	0
会 議 費	100,000	100,000	0
慶 弔 費	25,000	20,000	5,000
卒業記念品代	105,000	100,000	5,000
雑 費	30,000	30,000	0
予 備 費	100,000	200,000	△100,000
将軍山会基金繰入	5,300,000	6,500,000	△1,200,000
特 別 会 計 選 費			
役 員 改 選 費	550,000	0	550,000
通 信 費	150,000	0	150,000
印 刷 費	1,000,000	0	1,000,000
総 会 費			
支 出 の 部 合 計	9,160,000	8,700,000	460,000
当年度消費収入超過額	0	0	0
前年度繰越消費収入超過額	1,017,542	565,205	452,337
次年度繰越消費収入超過額	1,017,542	565,205	452,337

お願い
いろいろなご連絡はハガキで
△会員番号▽を お忘れなく 住所変更
・改姓のご連絡は 早い目に。ご結婚の
時は一週間前までにお知らせ下さい。祝
電を送ります。

山桜会報が近々 届けられます。業種
・職業調査にご協力願います。返送用ハ
ガキに 要点ご記入の上 できるだけ早
く ご投函願います。
ご不審の点は 電話またはハガキでお
問い合わせ下さい。

村山ゼミの同窓会

村山ゼミの卒業生もはや200名を越え 一度全員の同窓会を開こうということになり 各期から1〜2名づつが集り計画を樹てた。

第一回の準備会は5月9日午後6時より大阪堺筋本町の有恒クラブで行い 村山先生のご出席の下に22名が出席し 旧交をあたため一期上野直路氏の司会により活発な討議の後創立記念日に近い5月27日の大学の公開講座の後で開くことにした。またその日は大学の新しい施設の見学もすることにした。5期の田中徹氏の世話もあって無事開かれたが当日は朝研究室に集合の後 日本文化研修道場松頼庵を見 コンピューター室でIBMの5100をたたき学生会館で食事をし 茨木商工会議所で行われた大学の公開講座に参加し 午後6時より近くの料亭「幸月」で楽しい一時を過ごした。出席者は1期の上野直路 2期の奥村正男 他6名 3期中井良樹 他4名 4期中村光伸 他2名 5期の田中徹 他3名 7期の井上孝雄 他2名 8期の塔鼻章利 他4名 9期の田中富雄 他1名 10期の竹中肇 ゼミ以外からも一人。自己紹介によると それぞれ英達の道を進んでおり 既に幾つかの企業を経営したり 課長 係長 主任もちらほら出はじめている。また 麻葉Gメンなどの異色のコースを進んでいる人もいた。互に名刺を交すと取引関係

であったり 先輩がすばらしいため 会社で6名も追大生を採用(内3名村山ゼミ)しているとか 自社のPR 配偶者を求むなど 思出話や将来の抱負など面白い話が続出した。非常に活気が湧いたところで 次回の予定ということになり 今年中にもう一回と是非行いたいというようになった。

日時	11月18日(土) 午後6時
場所	「レストラン多気」 (2期・多気善郎氏経営 二次会向のサパークラブ も近く開店) 大阪市東区京橋3丁目11 幸ビル1階 電話941-0639 地下鉄天満橋下車徒歩2 分 松坂屋西南 府立労働会館隣
会費	5千円

今回の幹事は2期が担当し 佃義清氏(守口市大久保町5-206 電話901-4100)が代表ということになった。

会の名は「(村山) 十月会」となり 毎年11月の第三土曜日に行おうということになった。参加者はゼミにこだわらず 来るものはこばまないということになった。多数の参加をお待ちしています。幹事に連絡して下さい。

ゼミの同窓会・クラブの同窓会のニュース・その他 個人のこともで商売上のことでも どしどし寄稿して下さい。寄稿は裏面の原稿紙を!!

大学だより

5月7日に行われた一・二部入れ替え戦・対甲南女子大戦で 念願の一部昇格を果たしました。

小林寺拳法部 6月25日に行われた関西学生小林寺拳法大会で 三人掛組演武は最優秀賞・二人掛組演武は優秀賞・乱取りも優秀賞を獲得しました。

軟式庭球クラブ 6月14・15日に服部緑地で行われた関西学生軟式庭球シングルス大会で西誠次君が七回戦に進出 ベスト8の成績をとり 全日本軟式庭球シングルスの出場権を得ました。7月

3日の同大会では三回戦に進出し ランキングベスト10となりました。

空手道部 7月8日 日本武道館での全日本和道会選手大会で団体4位・織田和彦君が個人優秀選手賞を獲得しました。

ゴルフ部 8月上旬の関西学生選手権では河原健君が3位となりました。

バスケットボール部 8月29日から31日の間に行われた二・三部入れ替え戦で 甲南大学と関西学院大学を連破し 二部に昇格しました。

硬式野球部 9月5日の阪神大学野球秋季リーグ戦で三木孝造君が完全試合ノース

ツトノランを達成しました。

△教育後援会会報の創刊号より▽

第12回将軍山祭ご案内

10月27日より30日までの4日間『将軍山祭の主役はだれ』のテーマで開催されます。

□10月27日(金) 体育祭・前夜祭

□10月28日(土) ジョイントコンサート

□10月29日(日) 野外ステージ・ダンスパーティー

□10月31日 後夜祭

□ 親団体の校友会山校友会総会を将軍山会も担当していますので 多くの会員が 11月26日(日)に 追手門学院小学校へ集まられますよう お願いします。

小学校は 大阪城の堀の北側にあり 大阪歯科大の大学院・大手前病院・合同庁舎の東です。校庭に 車を駐められますからお車でも どうぞ。

附近は 大阪城公園に近く 大阪の中心・一等地です。

将軍山会会員ののために 実行委員が いろいろと頭をひねっていますから 是非 どうぞ。

(さ)

同窓会て何

小堀久男

かねてから会報を通じて 将軍山会という名の同窓会が 紆余曲折を経ながらも存在し 何らかの活動をしていることは知っていた。自分から申し出るまでにはいたらないにしても 万が一何らかの仕事が割当てられるようなことにでもなれば その時は自分の生活状態を斟酌した上で働かねばならないと思っていた。丁度このような時に常任理事の話があった。当然のこととして承諾した。既に何回かの会議に出席し 毎年七百万円以上の会費収入があり 来期になれば三千万円に達することが明らかな同窓会基金の適切有効な運用方法ならびに かかる基金はいうならば一種の公金的性質をもつものであるからその支出に関する原則規定とか これに基づく細則とかの原案作成についての基本的事項等の検討を他の理事と共に進めている。会議は何時もロイヤルホテル旧館ロビーで行われる。理由は 多少の気兼ねがあるとしても 無神経になりさえすれば 快適な場所が無料で使用できるからという将軍山会顧問佐藤氏のすすめによるものである。それでも無神経に徹しきれない幾人かの理事は ホテルのボーイが何回か巡回してくると 気を休めるために自費でコーヒー等を注文することがある。

ところで会議に出席しているうちに 一体同窓会とはどういう性質の集団であるのか またあるべきものなのか等について考え始めた。勿論 いづれの学校・大学についても同窓会組織があり 各々会則の中でその目的を掲げている。例えば本会に就いては その会則の第四条で「本会は会員相互の親睦を厚くし 母校との関係を密にし 母校の発展に寄与することを目的とする」と定めている。他大学の同窓会会則をみても大同小異であり 共通していることはといえば 「会員の親睦を計ること」「母校の発展ないし隆盛を計ること」という二つの事項である。こころに迫る問題が潜んでいるように思えるのである。まず第一に会員の「親睦」ということであれば 多人数よりも少人数の方がこじんまりとして容易に「親睦」の目的が達せられるであろう。大きな単位の同窓会よりも クラスないしクラブ単位の会合の方が盛んな所以である。第二に「母校の発展ないし隆盛を計ること」が ともしれば経済的支援団体的感覚を与えかねない。自己に直接 有形的利益がみられないことのためへの出費は できる限りこれを控えたいのが人情であろうから 控えた同窓会への関心が薄らぐ所以である。つまり同窓会の目的事項とされているものが 実が会員の同窓会に対する関心を希薄にさせる因子を内在させているという自家撞着に気付くのである。

そこで一体 ① 同窓会がなぜ存在しなければならないかという点。② 存在しなければならないとすれば そのあるべき姿とは何かという点等の問題に逢着する。このような問題は一人で考えるべきものではなく 全員で考えるべき性質のものであると思うが 仮にここで私見を述べることが許されるとすれば 未成熟ではあるが次のようになる。まず①の問題については アリストテレスが夙にいうように人間は本来 political animal であるということに加えて sentimental animal でもあることに帰着すると考えられる。小野田さんや横井さんの例を見るまでもなく 人は単独では暮せない。人は何らかの集団ないし社会に所属して生きたいという本能的意欲を有する。そして人の所属する集団ないし社会は 公的・私的に幾階層・幾種類にも分かれ且つまたがっているのが現実であるが 人は皆その中で 何らかの義務を履行し権利を行使することにより 何らかの有形無形の利益をそこから得られることになっている。ところが同窓会は多くの会則の示す通り一つには「親睦」団体であるということである。そうであれば極言すれば それは sentimental community ということになる。何時かの会報で 他大学の盛大な同窓会開催の記事を新聞等で見かけることがあるが その度に本会もそうならないかと思いつくという意味のことを誰かが書いて

おられたのを見たが この言葉などはまさに 同窓会を sentimental community として見ている面が多分にあると思う(もし表意者の真意を取違えているとすれば 適当な機会に謝らせて戴く)。

人はおよそ誰でも多かれ少なかれセンチメンタルな面を持つのであるから 同窓会の不存在を考えれば淋しいし あった方が良からうということになる。これは人が political and sentimental animal であることを前提とした 第一の問題に対する一応の解答である。しかし 本当の問題点は「親睦」の中味にこそ存在しなければならないと思う。もしその中味が酒肴飲食放歌高吟等にあると考えるならば それはつまらぬセンチメンタリズム以外の何ものでもなく 酒を好まず 何かを得んとして参加した者には落胆のみを与え次回からの出席を断念させる破目になるであろう。そこでこの「親睦」の中味をいろいろと検討する必要があるかと思う。勿論 旧交を温めることに歓びを抱くのは人間自然の感情であるから これを否定するわけではない。ただそういうことを以て「親睦」の本旨とせず そのようなことは付随的なものとして 他に もっと異なる価値の何かを求め実現することを以て「親睦」の本旨としたいと思うのである。

さりとて 今良い考えが浮んでくるわけではないが 強いていえば次のようなものである。例えば 社会

人になってから直面し 解決しかねている またはうまく解決しあるいは損った問題等を先輩後輩の面前で吐露発表し それに対して他の者が種々意見を述べ共に考えたり 更に新しい情報入手のための機会を設けるとか また 人は何らか確たる人生観なり世界観を持っている方が そういうものを持たない者よりは社会的信頼度の高いことが社会における通例であることに鑑み 勇気をもって各自が自己の人生観なり世界観なりを披瀝し これを皆で寄ってたかって叩いたり褒めたりしながら 会員の人格形成とその向上に役立てるとか または 会員の中には結婚適令期に達している者も多数存在することであるから 同窓会が主催する集団見合をしたり あるいは見合の幹旋をしたりすれば面白くもあり有益でもあり いわゆる「親睦」の価値も上昇するのではないかと思ったりもする。

(ここ迄書いて ここで続けて第二の問題 つまり同窓会のあるべき姿に論及するとなると 更に広い紙面を必要とすることがわかった。今回の辺で擱筆し 続く問題については許されれば次回にでも述べたいと思う。)

小堀久男氏は経済学部46年卒で現在は相愛短大の講師として活躍中 今春より常任理事として将軍山会の理論的中核となっています。(佐)

盛会だった90周年総会

員のご参加が意外と少いとでした。

53年11月26日 前夜来の雨も晴れて 母校発祥の地に 親団体校友 会山校友会の旗と 大学同窓会将軍 山会の旗とが晩 秋の大阪城を背 にひるがえって いました。 大学同窓会の 将軍山会役員は この日は大忙し の一日でした。 受付けから 駐車場の係まで を受け持ち 又 総会の司会やパ ーティーの準備 まで 校友会の 先輩に協力して 力いっぱい働 きました。ただ残 念なことには大 学の先生方や大 学卒業の本会会

村山ゼミ同窓会「十一月会」 大阪・ミナミで盛大に



第二回村山ゼミ同窓会(村山十一月会)が去る十一月十八日(土)夕刻大阪天満にて村山ゼミ2期生の多気善郎氏経営の「レストラン多気」で行なわれた。忙しい時期にもかかわらず多数の

将軍山会報

発行所 次木市西安威2-1-15
追手門学院大学同窓会
将軍山会
電話 0726-43-5421 内線337
発行者 常任理事会議長 鶴 毅
© 1979
印刷所 内田印刷 K K

出席者が一同に会し 村山ゼミ以外からも一期の梶浦氏や放送部OBの河井 片山氏も来られ 村山先生を慕う同窓諸氏が昔の思い出話に盃を傾けた。中でもこの十一月会の為に島根より来阪された8期の石飛氏は 郷土の地酒を振まわれ一同美酒に酔いレストラン多気ご自慢の鍋料理を心ゆくまで味わった。村山ゼミ同窓会を盛んにしようという意気込みはここに最高潮を迎え同窓幹事会も正式に発足した。会長には一期生の宮田寛行氏が満場一致で選ばれ 同氏も幹事会 同窓会運営に意欲をもって臨まれる決意の程を語られた。さて 村山十一月会の二次会がさめやらぬ熱気のもと 同じく多気氏経営のミナミ笠屋町で新装開店直前のパブ・ディスコ「サウス・リー」にて行なわれた。同店はミナミの一等地であり 店内の最新設備は我々にとっては目を見張るばかりであったが 村山十一月会より多気氏に開店祝い金が贈呈された。サタデーナイト・フィーバーという事もあったか 出席者は勿論のこと村山先生もジョン・トラボルタよろしくフィーバーされて 久々の学生気分を味わった。また 今やラジオ・テレビに活躍中のDJとして有名な片山OBの名調子での司会は 店内の雰囲気盛り上げ 芸人揃いの村山十一月会に従業員も真青であったのは特筆すべきことであった。

オレンジジュースでホロ酔い加減の村山先生もディスコを踊られ 例の詩吟調の歌も出 多数の同窓諸氏出席のもと 第二回村山ゼミ同窓会も成功の内に終わり 一年後の再会を固く約束し合った。今後の村山ゼミでは 同窓会行事は幹事会が運営し 恒例の村山十一月会の他に年間を通じて ゴルフ 囲碁 小旅行等の「村山文化会」にて同窓会員相互の親睦を計る事になるので 村山ゼミ同窓会の方々は 当将軍山会報等に注意していただきたい。又 村山ゼミ同窓会名簿に多少の残余があるので 希望者は幹事会まで連絡して下さい。尚 幹事会役員 及び今後の行事予定は次の通りです。(十期生 竹中記)

村山ゼミ同窓会・幹事会
連絡先 村山教授研究室内
幹事会役員(敬称略)
会長 宮田寛行(一期)
会計 山中昌明(七期)
各期代表幹事
一期 上野直路 二期 佃 義清
三期 中里 恒 四期 中村光伸
五期 田中 徹 六期 谷脇博則
七期 近藤典男 八期(A)塔鼻章利
八期(B)金谷充康 九期 田中富雄
十期 竹中 肇
行事予定
・第三回村山十一月会
昭和五十四年十一月中旬予定
・第一回定例幹事会
昭和五十四年六月三日(日)
午後一時より 村山先生研究室にて(大学研究棟512号室)

山桜会報・将軍山会報 原稿用紙

氏 名

卒業年次・学校名

〈掲載希望の方を○でかくて下さい〉

将軍山会消費収支計算書

自昭和53年 4 月 1 日
至昭和54年 3 月31日

(単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
(収入の部)			
会 費	8,000,000	8,130,000	△130,000
受 取 利 息	1,160,000	1,225,744	△ 65,744
雑 収 入	0	(注1)500,000	△500,000
収 入 の 部 合 計	9,160,000	9,855,744	△695,744
(支出の部)			
一 般 経 費			
人 件 費	300,000	333,750	△ 33,750
会 報 印 刷 費	200,000	144,980	55,020
その他の印刷費	250,000	288,600	△ 38,600
通 信 ・ 交 通 費	1,000,000	699,000	301,000
消 耗 品 費	50,000	28,200	21,800
会 議 費	100,000	39,830	60,170
慶 弔 費	25,000	9,490	15,510
卒 業 記 念 品 代	105,000	105,000	0
雑 費	30,000	(注1)116,168	△ 86,168
予 備 費	100,000	0	100,000
将軍山会基金繰入	5,300,000	5,290,487	9,513
特 別 経 費			
役員改選通信費	550,000	251,200	298,800
印刷代	150,000	187,000	△ 37,000
総 会 通信費	300,000	236,840	63,160
印刷費	200,000	161,180	38,820
雑 費	500,000	429,500	70,500
支 出 の 部 合 計	9,160,000	8,321,225	838,775
当 年 度 消 費 収 入 超 過 額	0	1,534,519	△1,534,519
前 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	1,017,542	1,017,542	0
次 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	1,017,542	2,552,061	△1,534,519

(注1) 大学祭援助金100,000円を山桜会に代わり将軍山会で負担し、山桜会より会費徴収手数料500,000円を受ける。

将 軍 山 会 貸 借 対 照 表

昭和54年 3 月31日

(単位 円)

借 方	貸 方
資 産 の 部	(35,552,061)
I 流 動 資 産	(13,252,061)
現 金	306,407
普 通 預 金	
三和銀行茨木西支店	3,385,942
住友銀行茨 木 支 店	2,409,479
大和銀行茨木西支店	1,150,233
有 価 証 券	6,945,654
Ⅱ 固 定 資 産	(22,300,000)
1. 投 資 等	(22,300,000)
将軍山会基金積立	22,300,000
有 価 証 券	
合 計	35,552,061
負 債 の 部	(33,000,000)
I 流 動 負 債	(10,700,000)
前 受 金	8,350,000
預 り 金	2,350,000
Ⅱ 特 定 引 当 金	(22,300,000)
将 軍 山 会 基 金	22,300,000
剰 余 金 の 部	(2,552,061)
I 繰越消費収入超過額	
(当期消費収入超過額 1,534,519)	2,552,061
合 計	35,552,061

昭和53年度の決算書のうち 左に掲げ
てある消費収支計算書の中 支出の部の
△その他印刷費と通信交通費△は 終身
会費未納会員への請求のための印刷物送

付にかかっている費用です。
もし 終身会費未納の会員への請求作
業に消費することが少くなれば 将軍山
会は節約してやると 受取利息だけで会

が運営されるようになるのも そうです
時のかかることではないと考えられま

将軍山会報

発 行 所
茨木市西安威2—1—15
追手門学院大学同窓会
将 軍 山 会
☎ 0726-43-5421 内線337
発 行 者
常任理事会議長 鶴 毅
© 1979
印 刷 所
内 田 印 刷 K K

昭和53年度決算書について

花 と 病 室

経済学部教授 高 井 家 治

手術は 昨年11月9日午前9時す
ぎから行われた。前夜9時すぎ睡眠
剤をのまされ 当日朝5時すぎ看護
婦にたたき起された。直ちに浣腸
点滴が初った。やつと9時前 点滴
が終り 麻酔薬の注射を打たれ 運
搬車に乗せられ 3・4人の看護婦
に付添われて 手術室の无影燈の下
に運ばれた。手術着を着た外科医が

2 3人 すっと寄り集ってきたな
あと……というところまでは覚えて
いる。ふとその時 病室を出るとき
心配そうな 祈るような目付で こ
ちらの方をじっと見ていた家内の顔
が頭をかすめた。
それから どれほど経ったか 麻
酔から覚めてきたのか……俺はいま
ベッドにいる。何んだか部屋が薄暗
い。戸棚がぼうと見えてきた。「あ
あ 手術はすんだんだなあ。俺の知
らない間に 腹を切り開かれ 患部
をとり出し 縫い合わされたのだな
あ……」と思っていると 家内の心
配そうな顔が目に入ってきた。
ふと横をみると 枕机の上に菊と
薔薇の花が5・6輪程活けてある花
瓶が目についた。
花は 家にいる時も 時々家内が
買ってきたり 庭で丹念に作ったの
を時々部屋に活けてあったりすると
時々の四季を感じたり きれいだな
あと思うことはあっても 不風流な
私には あまり関心を示すことはな
い。部屋のアクセサリ位に思っ
ていたのが この時はどうしたわけか
馬鹿に目にしみる。
どうしたんだと聞くと 若い人が
持ってきてくれたという。どんなひ
とだというと あなたが手術がすん
で病室に連れ戻されてきた直後 婦
長さんに呼ばれ行ってみると 背の
高い青年がみえて「僕は3年前に追

追手門学院大学を卒業したものです。
先生は多分僕のことをご存知ないと
思います。あるいは顔をみたら想い
出されるかも知れませんが…… 僕
はいまこの病院に治療のため通院し
ています。たまたま聞きましたら
追手門学院大学の高井先生が今日手
術されると聞きましたので お見舞
にやってきました」といって置いて
いったという。
「失礼ですが お名前は……」と
問いかけると てれ奥そうに 名前
もいわずエレベーターの中へ消えて
いったという。
枕元の花……ぎゅとみていると
熱いものが胸のどこからかこみ上っ
てきた。姿の見えないその卒業生が
偲ばれ なんだか胸が一杯になっ
てきた。
どここの病室もそうだろうが 部屋
にはベッド ロッカー 戸棚とサイ
ドテーブル それに付添婦の休める
ソファークらいのものだ。そのうえ
部屋の色はネズミ色一色で どこと
なく寒々しく 索漠(さくぼく)と
したものだ。ことに 私の病室は北
向きだったので猶更その感が深い。
そこに数輪の花 一つの静かな 暖
味のこもった生きた魂が わたくし
に語りかけた。「ごらんさい。わ
たくし達はこんな元気です。さあ
元氣を出しなさい。そうして大いに
大氣を吸い すがすがしい太陽の光
を一杯に浴びましょう。しっかりし
て下さい」
こんな花との語らいをしたことは

聴しいながら 今までの私の生活体
験のなかにはなかった。また 人の
情けがこんなにしみじみ思われるこ
ともなかった。
その後も 多数の見舞客から沢山
の花をいただいた。急に部屋が花一
杯になり 陰鬱な病室が明るく 生
々と花の命が語りかけた。一輪 一
輪の花は 手術後の麻酔が覚め 少
くともわたくしは まさに七転八倒
断腸の思いに苦しみ抜いた時に わ
たくしへの無限の励しであった。そ
れは また 花を通しての人の心の
語りかけであった。
世に俊才といわれ エリートと将

編 集 後 記

大学を卒業して社会人になって
毎日毎日 仕事を追い廻わしいや
追い廻わされて とても母校のこと
なんか想い出す閑なんかない。
たまに友人と会っても学生時代の
想い出にふけるより今の仕事や給料
嫁さん子供のことが話題になる。
日本では現在も月月火水木金で
カネ・カネだから 同窓会など全く
クソくらえだ。
× × ×
金曜の夜も土曜の午後も働きづめ
の卒業生のみなさん。日曜はグッた
り? いや日曜返上でハッスルしてい
る卒業生のみなさん。
× × ×
どんな生活を また忙しくしてお
られても みなさんは追大の追手門
学院大学の卒業生です。
× × ×
ご近況なり あるいは社会人とし
てのお考えなり また 後輩へ一言
など 短信欄を使ってお知らせ下さ
い。
お仕事の内容も どこに勤めてい
るかもまだ判らない会員もいます。
× × ×
大学に帰って来られたときには
研究棟の△校友会事務局△にお寄
下さい。研究棟の地下06室です。
× × ×
ご結婚のときには本会より祝電を
お送りします。ご遠慮なくハガキで
お知らせ下さい。
(次)

来を囑望される人も多かるう。しか
し それら人々に まるやかな 暖
かい人間の思遣りが欠けていたなら
ば いかにすぐれた業績があつたと
しても 空々しい灰色の闘争と競争
に心身をすりへらす人となり終らな
いだろうか。私は 今日に至るまで
いまだ あの花をくれた卒業生の名
前も姿も知らない。
しかし 花をお見舞に貰ったから
いうのではない。人間として生きる
途を知っているあの追手門学院大学
の卒業生に心から拍手を送り その
健やかな成長を祈る気持で一杯であ
る。